井俣憲治議員

Q 平成22年を目標年次とする東郷町都市計画マスタープランの進捗状況は

A 土地利用の誘導目標という位置づけだが地権者の思いもあり順調とはいえない

Q 今年5月、豊明市で水田から粘土採取後の埋戻しを装い、産廃を埋めたとして産廃業者が逮捕されている。東郷町では問題はないか。

A 過去10件、土採取をしており懸念している。

Q 町内の農業従事者や地主が悪意を持った業者にだまされ、産廃を埋められたり、有害図書販売機を設置されたりしないよう、町として注意喚起すべきでは。

A 機会あるごとにPRをしていきたい。

Q 平成23年に現在県内に20区ある都市計画区域が6区に再編される。東郷町への影響は。

A 人口増加地域として考慮されるが流通・先端技術系以外の企業誘致および農地の転用は難しくなると思われる。

土質等規制条例および土採取規制条例

Q 両条例では業者に土地を貸した地主にも厳しい責任を負わせているが。

A 安易に土地を貸す事のないようにという趣旨。

Q 町民の安全のため、条例制定前の案件についても業者・地権者に呼びかけるべきでは。

A 検討したい。

Q 「骨太の方針2008」において道路特定財源の一般財源化が盛込まれそうな状況。道路特定財源を使い推進している「白土涼松まちづくり計画」への影響は。

A 建ぺい率の緩和等の措置は既にされているので、補助金がカットされても事業は継続する。

町内の遊休農地

東郷町内でよく見られる盛土現場

星野靖江議員

Q 学校緊急管理マニュアルの現況は

A 不審者情報等を共有化し瞬時に対応する

Q 子どもたちの登下校時の防犯対策は。

A スクールガードの組織化や不審者ネットワーク機能をさらに充実し、保護者との情報伝達や連絡を密にする。

Q 21年開設の諸輪交番に、交番相談員の配置は。

A 春木交番には配置したが、今後、検討する。

Q 道路交通法改正に伴い、歩行者と自転車を分離した道路整備計画は。

A 車道・歩道の明確化は安全な道づくりの点から重要と認識しているが、新設道路整備時に側帯の余裕幅を確保したい。

Q 人に優しい道路に考慮した整備計画は。

A 役場周辺をバリアフリー化に向け推進しているが、道路整備は第5次総合計画にて考慮したい。

Q 防犯対策推進のため「安心安全課」の創設は。

A 次期担当業務の検討時に課題としたい。

Q AEDマップ作成は。

A 現在32台設置。今後、尾三消防署と連携を図り、より良い対策を講じたい。

食の安全確保とその対策は

Q 食の安心安全の観点から、次世代農業生産ビジネスの考えと支援は。

A 特定農地貸付法や市民農園整備促進法により、遊休農地の活用と自然や農業に触れたいと願う住民ニーズを把握し、市民農園や農作物直売所のあり方等検討。今後は第5次総合計画で産業と農業の調和を求め、有効な土地利用計画の推進と農業経営支援を図りたい。

加藤啓二議員

Q いこまい館見直し基本方針

A 予算を伴うものは議会の承認を得て実施する

Q いこまい館の見直し実施案の予算がアンケートで出された概算と大幅に違う場合は。

A 具体的な必要性を逐次踏まえて検討を進めることになる。

診療所移転の計画について

Q 診療所の業務内容の検討は。

A 診療所運営委員会へ諮問し検討してもらう。

Q 診療所がいこまい館に移設する場合、いこまい館が多目的に利用される施設であり、幼い子供が利用するゾーンもある。安全対策は。

A 仮に現在の機能の診療所をそのまま移転した場合、病気の人と一般利用者との接触がおきないように対策は必要であると思う。病気感染の対策も十分考慮しなければならない。移設に当たっては安全面に特にしっかりとした対策をとることになると思う。

Q 診療所の採算は。

A 採算のとれない原因は、主に、経費面で人件費の占める割合が高く、収入面で外来収入の総収入額に占める割合が低いということになる。いこまい館に移設する場合に採算面の検討は重要事項であり、現在より採算状況が改善されるものにしなければならないと考えている。

Q いこまい館に診療所を移設する構想計画は無駄な投資とならないか。

A これからの町の診療所が、どうあるべきか、今の機会をとらえて検討していただきたい。

東郷診療所

いこまい館での集団検診

有元洋剛議員

Q 思い切って診療所の廃止を視野に入れて検討すべきと思うが

A そういう考えも入ってくると思う

Q いこまい館へ移転後の診療所の在り方について検討はどこでするのか。マスタープランがあるか。

A 診療所運営委員会に諮問する。マスタープランはまだない。

Q 個別検診や安心人間ドック等の仕事が増えるが、体制に変更があるか。

A 現状通り変更はない。

Q 診療所の安心人間ドックの有料化により診療所の採算が大幅に改善できると期待してよいか。

A 8月から始まる特定健診との併用により、自己負担が軽減出来るので期待している。

Q いこまい館での集団健診の定員が後期高齢者を含め800名だが、定員オーバーの場合の対策はあるか。

A 1100人余を受付済み。期間内で消化する。

いこまい館の見直し

Q アンケート回答者の中には利用したことがない人や、「見直し案の基本的な考え方」に反対・無回答の人が多かったがどう思うか。

A そのような人が多かったのは残念である。今後PRに力を入れたい。

Q 新いこまい館の各ゾーンについて今後どのような体制で進めて行くのか。プロジェクトチームを組むのか。また、その工程表はどのようなものか。

A ゾーン毎に内部組織をつくり、できるところから実施に向けて検討を開始したい。